

顔文字コミュニケーション

研究開発部
北村 安樹子

< ITへの高い関心と情報通信機器の普及 >

「IT革命」が唱えられるようになって久しい。国のIT推進政策の一環として昨年度から始まったIT講習には、各地で募集定員を大幅に上回る申し込みがあり、もっとも高かった東京都の倍率は17.6倍にも達したといふ(総務省自治行政局IT講習推進室『IT講習事業実施状況 - 平成12年度第4・四半期の実績 - 』2001年5月10日発表)。情報技術革命にとり残されまいとする、国民の関心の高さがうかがえる。

ほんの数年前まで、携帯電話やパソコンは一部の人が使うものにすぎなかった。しかし、総務省の『通信利用動向調査』によると、携帯電話やパソコンの世帯普及率は2000年11月時点でそれぞれ75.4%、50.5%に達しており、もはや多くの人を利用する機器の仲間入りを果たしたといえる(図表1)。

< メールコミュニケーションに対する意識 >

携帯電話やパソコンの普及とともに、電子メールというコミュニケーション手段も、人々の生活に浸透し始めている。文化庁が行った『国語に関する世論調査』によると、ふだん電子メールを利用している人は全体の25.8%であった(図表2)。全体でみると少ないように感じるが、年代別にみると、10代後半や20代では利用者が6割強に達している。メールによるコミュニケーションは、若い世代を中心に急速に普及している。

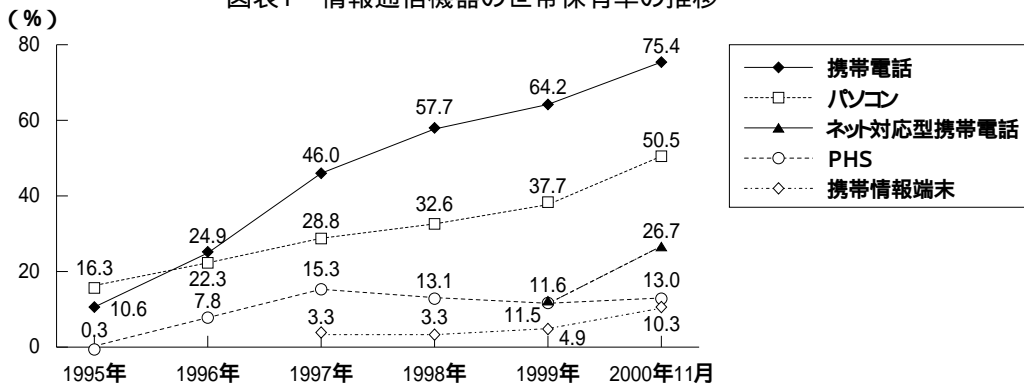
キーボード操作に不慣れな初心者にとって、パソコンでのメールのやりとりは、操作上のハードルが高かった。しかし、複雑な操作のいらぬ携帯電話でのメールサービス開始によって、電子メール利用者のすそ野は急速に広がったと考えられる。直接の会話、あるいは手紙や電話などに比べて、送り手側、受け手側双方の心理的、作業的な負担が少ないという点もメールが広く受け入れられた理由だろう。先の調査によると、「話すように書けるので、思ったことが言いやすい」「要点だけを書くので、簡潔なやりとりになる」「打ち解けた言葉遣いができるので、相手と親しくなれる」など、利用者の多くが、電子メールによるコミュニケーションのさまざまな利点をあげている(図表3)。

< 顔文字コミュニケーションの豊かさどリスク >

電子メールでは、記号や文字を組み合わせた「顔文字」が使われることがある。顔文字は、テキスト文字だけでは表しにくい感情のニュアンスや、親しみの気持ちを込めたあいさつ表現として使われることが多い。図表4はその一例である。

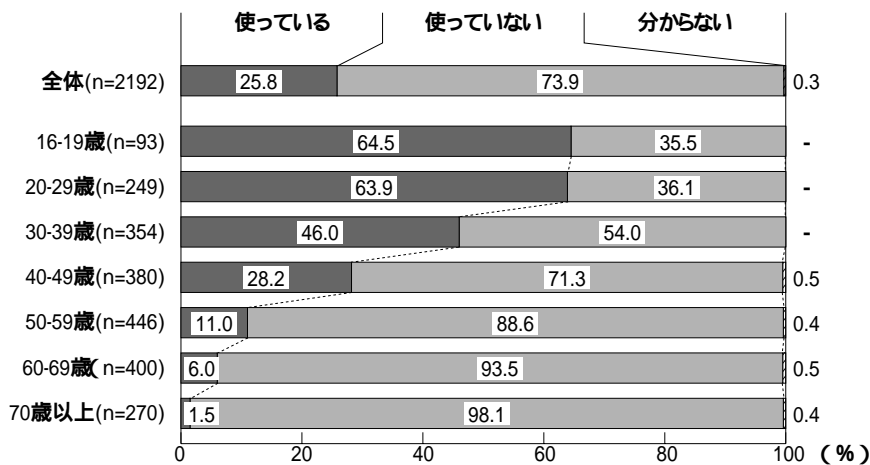
電子メールは、手紙のように直筆でないため個性が失われやすいという一面もある。顔文字をおりまぜることにより、ともすると無機的になりがちな文面に表情をつけることもできる。先の調査によれば、顔文字については「発信者への親しみを感じる」と好意的な人が6割弱を占める一方で、「ふざけた感じがして失礼だ」と不快感を示す人も少なからずいる。顔文字は、表現を豊かにする有効な手段の1つではあるが、使い方によっては、失礼になったり、意図したニュアンスが正確に伝わらないリスクがともなうことも忘れないようにしたい。

図表1 情報通信機器の世帯保有率の推移



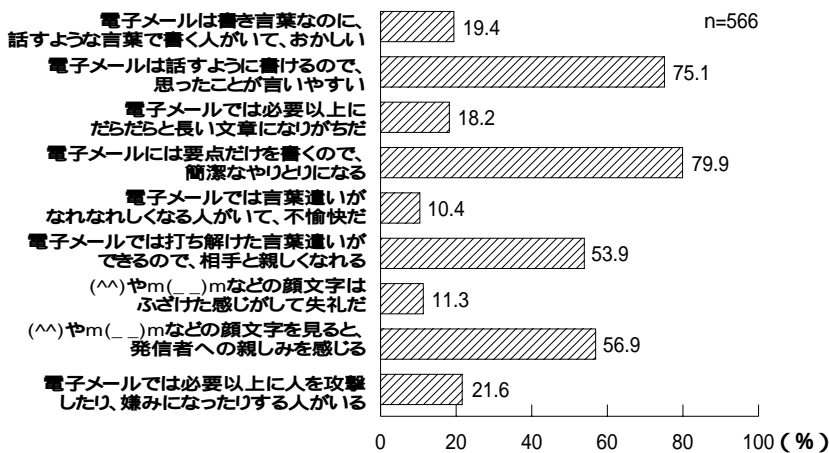
注1:調査対象者は、全国の世帯主が20歳以上の6400世帯(単身世帯を含む)
 注2:「ネット対応型携帯電話」は、「携帯電話」の内数を表示
 資料:総務省『通信利用動向調査 世帯編』2001年4月

図表2 電子メール(Eメール)の使用状況(年代別)



注:調査対象者は、全国の16歳以上の男女3,000人。調査時期は、2001年1月
 資料:文化庁文化部国語課『国語に関する世論調査』2001年6月

図表3 電子メール(Eメール)のやりとりで感じる事(複数回答)



注1:回答者は、ふだん、電子メール(Eメール)を「使っている」と答えた566人
 注2:図表中の数値は、「ある」と答えた人の割合
 資料は図表2に同じ

図表4 顔文字の例

顔文字	意味
(-_-)	怒る
(^^)	照れる
(-_-)!!	ひらめく
(>_<)	痛い
(T_T)	悲しい
(@_@)	混乱状態
(^^)人(^^)	仲良し
m(_)_m	ごめんなさい
\(-0-\)/	おはよう
(^_^)/	ちーっす
(^-^)/	ばいばい
(^_^)	ウインク
(^0^)/v	Vサイン
\(> <)/	助けて

資料:StereoMagic『face mark library 2000 contemporary smileys of Japan 完全収録! フェイスマーク・ライブラリ2000』株式会社ジーオーティー 2000年4月